

令和7年7月31日

三田市長 田村 克也 様

三田市行政評価委員会  
委員長 赤澤 宏樹

令和7年度行政評価（内部評価）に対する検証について（答申）

令和7年6月19日付三政第20号で諮問のあった標題の件について、三田市行政評価条例第5条第3項の規定に基づき検証した結果、下記のとおり答申します。

## 記

### （1）総括

当委員会が実施した行政評価（外部評価）では、令和4年度にスタートした第5次三田市総合計画に基づく令和6年度の取り組みについて評価を行った。25施策及びデジタル田園都市国家構想交付金を活用する事業（以下：交付金活用事業）の進捗状況について3段階で評価することとし、その3段階を「A：良好な進捗」、「B：標準的な進捗」、「C：今後の取り組みに期待」としたものである。

具体的評価手法としては、行政が作成した内部評価調書に基づき判断することとした上で、調書の記載を補完するため3施策についてヒアリングを実施するとともに、その他の施策についても書面での質疑を行った。

これらの結果、25施策及び交付金活用事業の評価は「A：良好な進捗」が3施策、「B：標準的な進捗」が24施策、「C：今後の取り組みに期待」が1施策であった。

事業を進めるなかで明らかになった課題は、市だけで解決しようとするのではなく市民等と連携を図ること。また、事業内容の見直しにあたっては他の関連施策との連携を検討することや成果指標の見直しを図っていくなど、第5次三田市総合計画後期計画策定時に参考にされたい。

当委員会での評価における今後の取り組みへの期待や助言をもとに、引き続き効果的・効率的な施策の推進を望む。

## (2) ヒアリング対象施策について

取組番号	7	取組名	若者が集うまち		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R6予算	36,412千円	R7予算	72,055千円	総合政策部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R6年度）					
主な取組3項目（予算額）		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
移住促進事業 27,248千円 ③住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開（若者の移住推進）		・結婚新生活支援事業（市内で新生活をスタートさせる新婚世帯のスタートアップ費用の支援） R6年度実績：32件 補助交付額 10,376千円 ・住み替え支援事業（市内外の若者・子育て世帯の市内住み替えを支援） R6年度実績：90件 補助交付額 11,350千円 （達成度） 移住定住相談窓口を通じた転入者がR6年度は105世帯260人（R5年度 84世帯134人）			
若者の定住促進 5,120千円 ②若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成（若者の定住推進）		・地域活躍人材育成事業（スモカモスプロジェクト）を、前年度に引き続き実施。令和6年度は22名が参加。令和3年度の事業開始以来の延べ参加人数は66名。事業者は事業開始以降、36社に協力いただいた。 ・三田ガクチカ FES の開催（学生サミット） R6年度実績：発表71人・参加者66人・運営16人参加 ・学生まちづくり活動補助金 R6年度実績：5件補助 （達成度） 若者が地域で活動する機運醸成、地域社会（事業者等）との関係が構築されつつある。			
出会い・結婚支援事業 2,910千円 ⑤新しい働き方の推進と出産・子育てを支援する仕組みづくり		・企業等と連携した出会い・結婚支援事業（出会う前から、出会い、交際から結婚まで総合的な支援を行う）令和6年度はイベント4回、延べ参加人数71人。 ・婚活支援事業（結婚を望む市民に出会いと交流の場を提供する機会を創出する事業の支援）令和6年度実績：1件 補助交付額：50千円 （達成度） 結婚をまだ意識していない若者への意識変容の機会創出につながった。			
成果指標の推移				成果を踏まえた重点課題等（R7年度～）	
指標名		基準R2	R6	目標R8	その他の課題等
1	未来を担う若者指数(15～19歳人口の10年後残存率)	63.0%	60.3%	70.0%	<b>重点課題</b> 移住定住施策の充実 【若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成】 【住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開】 ②若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成（若者の定住推進）
2	地域でチャレンジできた学生等若者のプロジェクト数（累計）	2件	64件	60件	
3	移住相談窓口相談件数（累計）	24件	741件	500件	◆ 詳細説明 若者・子育て世代の定住や、市外からの移住を促進するための支援策により、人口の増加に取り組む。 <b>その他の課題</b> 首都圏を中心とした関係人口の創出 若者や子育て世代を中心に活性化する持続可能なまちづくり 結婚を望む市民を結婚までサポートする事業の展開
4	0～4歳児童数	3,892人	2,963人	3,500人	

## R7 予算対応済内容

- ・移住支援金(4,400 千円)
- ・住み替え支援補助事業(14,400 千円)
- ・うえるかむ三田補助事業(400 千円)
- ・新婚生活支援事業(9,660 千円)
- ・企業等と連携した出会い
- ・結婚支援事業 (3,000 千円)
- ・学生のまちづくり支援事業 (6,003 千円)

## 2 外部評価での主な意見

- 市からの情報発信について、広報誌だけでなく、SNSの活用やインフルエンサー等との連携を図るなど、より効果的な広報活動に努められたい。
- 令和6年度「三田市幸せ実感度調査」の結果では、今後三田のまちづくりにおいて重要なパートナーである若者の満足度が低いことが課題と感じる。若者の満足度向上に繋がる取り組みに期待する。
- 新規開発による住宅供給を実施するのではなく、空き家等の住宅ストックを活用し、住宅流通を促す取り組みを進めることが必要である。

取組番号	16	取組名	農業の振興		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R6予算	436,811千円	R7予算	375,767千円	産業振興部・学校教育部 農業委員会事務局	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R6年度）					
主な取組3項目（予算額）		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
地域計画の策定 8,858千円 ①みんなで支える三田の農業		市が開催したワークショップを通じて、概ね10年後の農地毎の耕作者や目指す農業の在り方等が地域での話し合いにより計画策定された。 ・地域計画策定対象87地域→地域計画策定済80地域 <b>（達成度）</b> 約9割の地域で策定され、課題整理や今後の方向性等が示されるとともに持続的な農業への気運が醸成された。			
三田産黒大豆枝豆の普及 300千円 ③農畜産物のブランド力強化と生産者所得の向上		JAビーンセンターを核とした出荷調整に係る作業負担の軽減や複数品種によるリレー出荷による収穫期間の拡大について、産地交付金等により推進した。 ・黒大豆枝豆作付面積計画（R8年度まで）79ha→実績約72ha（R6年度） <b>（達成度）</b> 作付面積はR2年度の約40haから約72haに順調に増加し、販売高もR3年度約52,000千円からR6年度約111,000千円と所得が向上している。			
農福連携 154千円 ⑤「農」への理解と農福連携の仕組みづくり		農業の不足する労働力確保と障害者等の自信や生きがいを持った社会参画の実現のため、マッチング等を行った。 ・マッチング計画（累計R8年度まで）7件→実績8件（R5：4件、R6：4件） <b>（達成度）</b> 農業・福祉それぞれの課題解決に繋がるウィンウィンの関係構築が進んだ。			
成果指標の推移				成果を踏まえた重点課題等（R7年度～）	
指標名		基準R2	R6	目標R8	その他の課題等
1	認定農業者数及び認定新規就農者数	88経営体	65経営体	100経営体	<b>重点課題</b> 担い手へのスマート農業機械の導入支援 ②スマート農業の導入で作業の自動化・省力化を実現  ◆ 詳細説明 人口減少や高齢化による農業者の減少に伴う遊休農地の拡大など、地域の農地が適切に利用されなくなることへの懸念が増しており、所有者が耕作出来なくなった農地を引き受けて耕作する担い手の引受能力をより一層拡充させる必要があるため、担い手へ農作業の効率化や省力化が図れるスマート農業機械の導入を支援する。
2	鳥獣害の農作物被害額	8,720千円	10,370千円（R5）	6,500千円	
3	三田牛の出荷頭数	209頭	73頭	250頭	
4	獣害対策柵の設置総延長	201km	222km	260km	
5	学校給食での地場産野菜使用率	31.3%	25.0%	35.0%	
					<b>その他の課題</b> ・多様な担い手の確保 ・鳥獣被害対策

## R 7 予算対応済内容

- ・新規就農者育成総合対策事業 (39,342 千円)
- ・農地利用効率化等支援事業 (24,000 千円)
- ・集落営農活性化プロジェクト事業費 10,000 千円)
- ・農業法人活性化支援事業費 (5,000 千円)
- ・スマート農業機械等導入支援事業 (1,800 千円)

## 2 外部評価での主な意見

- 農業の振興に対する様々な取り組みを進めているが、取組内容に変化がないように感じる。農福連携や農業を希望する転入者への対応等、更に農業部局以外と連携し、新しい取り組みに努められたい。
- 指標設定について実績と指標に大きな乖離がある。次期、策定時には実態に合わせて見直す必要がある。
- 持続可能な農業の展開を目的に市内の9割以上の地域で地域計画を策定しているが、計画が広く知られていない。それら課題を整理しながら今後の施策展開につなげることを期待する。

取組番号	18-1	取組名	三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー 発掘・育成支援事業		
1 内部評価の概要					
対象経費（人件費除く）				施策関連部署	
R6予算	5,000千円	R7予算	0円	都市整備部	
予算の重点項目に対する市の取組結果（R6年度）					
主な取組項目（予算額）		⇒左記の計画数量、達成数量及び達成度評価			
・「やってみたい」を地域の様々なスペースで実践するためのノウハウを実践形式で学ぶワークショップの実施		プログラムへの参加者数及び参加者の協力者数が増加し、当該事業の一定の進捗はあったものと判断できる。			
・すでに「やってみたい」をまちづくりにつなげているメンターによる伴走や共に活動を行う仲間づくり					
・発表会、座談会、マルシェ、トークイベントなど様々な形態での「やってみたい」の実践					
・プログラム参加者、次期参加者、既存プレーヤー地域内支援者のコミュニティ形成の基盤づくり					
・地域向けの広報誌制作、参加者自らのSNS等を通じた情報発信支援					
・プログラム参加者のコミュニティ継続支援					
・「やってみたい」を支援する環境を整備するコミュニティリーダーの育成					
成果指標の推移					成果を踏まえた重点課題等（R7年度～）
指標名		基準（基準年）	R6	目標R8	その他の課題等
1	フラワータウンの世帯数	8,694（R6）	8,708		<b>成果</b> プログラムへ参加し育成された新たなまちづくりの担い手となる者たちがその協力者とともに、自らイベントを企画・開催するなど、フラワータウンで自ら活動していくための素地は形成できつつある。  <b>課題</b> 参加者が継続的にまちづくりに携わるための伴走型支援にかかるマンパワーやノウハウ、事業者等との資金面も含めた連携などの体制が追いついておらず、一部で混乱を招くケースが生じた。こうした状況を踏まえ、これまで発掘したまちづくりの担い手の育成にかかる体制整備に向けた検討及び協力者との連携を深めることが課題となる。
2	プログラム参加者数	26（R6）	44		
3	プログラム参加者の協力者数	75（R6）	158		

## 次年度への対応策

今年度で当該事業は一旦中断となるが、これまで発掘・育成した新たなまちづくりの担い手への伴走型支援、フラワータウンで活動するための場所を提供した、それらの者たちが使いやすくするための仕組みづくりが必要となる。そのためには、フラワータウンのセンター地区に土地・施設を所有する様々なステークホルダーと連携した取り組みを進めていく。

## 2 外部評価での主な意見

- 本事業は令和7年度からデジタル田園都市国家構想交付金の申請はとりやめるが、まちをリードする人材を育成する目的が同じである、地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」等ほかの事業と連携することが必要である。
- 伴走型支援のマンパワーやノウハウ、事業者の連携不足を解消する等、市側の体制を整える必要がある。
- 人口減少対策として、大きな再開発を行い、人口を増やす政策がよくとられるが、人材育成につながるソフト事業も併せて展開することを期待する。

### (3) 25施策及びデジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業評価

A:良好な進捗      B:標準的な進捗      C:今後の取り組みに期待

取組番号	取組名 (施策名)	評価	取組番号	取組名 (施策名)	評価
1	人権・共生のまちづくり	B	14	心つながる暮らしの安心	A
2	地域で支えるまちづくり	B	15	商工業の振興	B
3	健康づくり	B	16	農業の振興	C
4	乳幼児期の育ち	A	17	観光・交流・文化の振興	B
5	地域ぐるみの子育て	A	17-1	三田市千丈寺湖畔再生プロジェクト推進事業(デジタル田園都市国家構想交付金)	B
6	学校教育の充実	B	18	まちの再生	B
7	若者が集うまち	B	18-1	三田市フラワータウンまちづくりプレーヤー発掘育成支援事業(デジタル田園都市国家構想交付金)	B
7-1	地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」(デジタル田園都市国家構想交付金)	B	19	良好な住まい	B
8	いつまでも学び、活躍できるまちづくり	B	20	交通ネットワーク	B
9	地域医療の安心	B	21	水の保全	B
10	生活の安全安心・非常時への備え	B	22	里山・自然の保全	B
11	子ども・子育ての安心	B	23	持続可能な環境づくり	B
12	高齢者の安心	B	24	協働・共創のまちづくり	B
13	障害のある人の安心	B	25	行政経営	B

### (4) ヒアリング対象外施策に対する意見等

➤ 5 地域ぐるみの子育て

子育て世帯の移住・定住につながる成果だと感じる。これからの取り組みや成果について効果的に市内外に向け、積極的・効果的な発信が行われるよう努められたい。

➤ 9 地域医療の安心

令和6年度「三田市幸せ実感度調査」では、市民の重要度は最も高く満足度は低い。市民が安心して医療を受けるための取り組みに期待する。